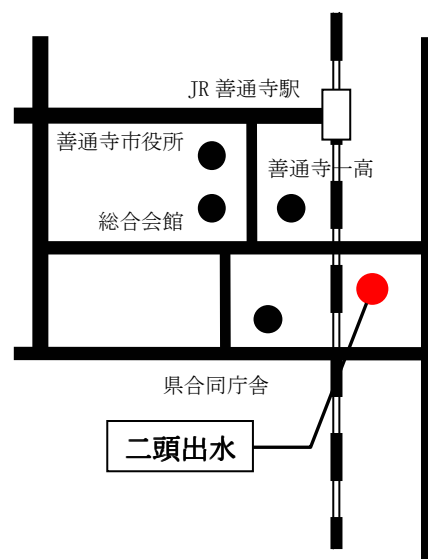


## 二頭出水 (ふたがしらですい)

位置図



R319

二頭出水は、2箇所から豊富で清澄な水が湧いていることから、そのように呼ばれています。満水面積は800㎡、貯水量は1,600m<sup>3</sup>もあり、古くから農業用水として利用されています。

善通寺市誌によりますと、平常、三吉田村（上吉田・下吉田・稲木村）が水懸りですが、<sup>かんぼつ</sup>旱魃時には善通寺の古寺領分耕地も取水権を持っていました。

しかし、古寺側が取水を申入れるのは池が干上がった旱魃時であるため、通告を受けた村々も同様に水に困っており、寺側の希望通りには取水出来ないことが多かったとされ、取水日割りについて対立していたこともたびたびあったようです。

このようなことから、当時から貴重な水源であったことがうかがえます。

現在は、ため池や水利施設も整備され安定した水の供給ができるようになり、そのような心配もなくなりました。しかし近年の異常渇水によって、ため池の水が減り、農作物への影響が心配されるときも涸れることなく田畑を潤すことができ、改めて出水の大切さを感じます。

当施設は、平成4年度に「さぬきの名水」として選定され、これを契機に平成5年度から6年度にかけて「魅力ある農村（むら）づくり事業」として石積護岸、植栽、東屋等を整備し、地域住民の憩いの場としても利用され大切に管理されています。



二頭出水全景



澄み渡った湧水